

ポスト・タナフォーラムの開催結果概要

(テーマ：「アフリカの平和・安保とTICAD8 (TICAD8 成果への評価)」)

2022年11月24日、AU代表部はアディスアベバ大学付属平和安全保障研究所(IPSS)とともに、「アフリカの平和・安保とTICAD8 (TICAD8 成果への評価)」をテーマとするポスト・タナフォーラムを開催しました。

冒頭、堀内大使は、①IPSSによるタナ・フォーラム・プロセスに於ける本件対話の重要性、②TICAD8で提示されたアフリカ内外における平和と安定の課題に対する日本のアプローチ、さらに③今後への展望について歓迎挨拶しました。

その中で、特に、1993年に初回サミットが開催されたTICADはAUパートナーシップ会合の先駆的であり冷戦直後に世界の関心を再びアフリカに振り向ける役割を果たしたこと、また、TICAD8では、より開かれた、透明性のある、包摂的な多国間主義がAUアジェンダ2063や国連SDGs目標の達成に貢献するとして、自由で開かれたインド太平洋(FOIP)の理念をアフリカ首脳が前向きに留意したことを紹介しました。さらに、日本がTICAD7において提唱した「アフリカの平和と安定に向けた新たなアプローチ(NAPSA)」の理念に基づき、アフリカが望む紛争の予防・仲介に日本として対応していることに言及した上で、これに加え、現在の相互依存の世界では、アフリカの持続可能な開発及び平和・安定はアフリカ域内の事情に対処しているだけでは達成できないといて、TICAD8チュニス宣言で日本とアフリカは多国間主義の重要性を認識し国連憲章を含む国際法の下で協働していくことにコミットしたこと等を指摘しました。

今次対話では、セッション1でアフリカにおける平和・安保に対処するアフリカの取組について議論した上で、セッション2でAUイニシアティブの観点からTICAD8成果から得られることについて、活発な議論が行われました。

最後に、堀内大使から、TICAD8において日本が表明した今後3年間で官民あわせて300億ドルの資金投入を含むコミットメントのフォローアップとTICAD9に向けたプロセスの両睨みに当たってアフリカ側からのインプットを引き続き歓迎する旨述べた上で、引き続き「アフリカの問題に対するアフリカの解決策(African solution to African problems)」の実現に向けて日本も取り組んでいく姿勢を示しつつ、相互依存の進む世界において、「グローバルな問題に対するアフリカの解決策(African solutions to Global problems)」の提示に当たってアフリカの知恵にも期待したい旨述べました。

